

学校関係者評価報告書

愛媛県立松山聾学校（49）

評価実施日	令和4年3月（書面開催）	
委員	所属等	備考
	就労関係者	
	福祉関係者	
	教育関係者	
	医療関係者	
	地域有識者	
	教育関係者、地域有識者	
	教育関係者、地域有識者	
	保護者代表	
	保護者代表	
	保護者代表	

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
<p>1 学習指導・言語指導について</p> <p>全体的に児童生徒の授業評価が高く、ICTを活用する環境が整っていることが分かる。ネット社会には功罪内包するので情報モラル学習が必要である。読書については、電子書籍への移行が進むと思うが、紙文化の重要性や、読書以外の多様な活動も自己評価に含むとよい。</p> <p>2 特別支援教育体制について</p> <p>卒業後のライフプランを立てるためにも、可能な生徒には寄宿舎を活用した模擬的な自活を経験させるのはどうか。</p> <p>魅力的な交流活動が多く企画された。引き続き発展させてほしい。</p> <p>外部の関連機関や進路・就労に関する情報を知る方法を保護者に教えてほしい。</p>	<p>今後も幼児児童生徒一人一人に応じた指導方法をさらに充実させていきたい。特にICT機器を活用した教育は本校で力を入れたい。情報モラルについてもより深く指導したい。</p> <p>読書活動については、新しい図書管理システムの導入準備を進めており、より魅力的な図書館環境を目指す。</p> <p>児童生徒の自立のために寄宿舎に短期入舎するプランは既に用意している。今後、保護者に十分に周知したい。</p> <p>今後も地域のニーズに合わせて聴覚障がい教育のセンター校としての機能を果たしていく。</p> <p>進路情報については、できる限り、情報を全教職員に提供し、多くの教職員から保護者・児童生徒に適切に情報が届くようにする。</p>

<p>3 生徒指導・学校運営について</p> <p>人権・同和教育の充実において、教職員の評価が低い理由を掘り下げて確認してはどうか。</p> <p>防災・安全教育は工夫して実施できており、この面からも自立につながっていると高く評価している。今後も地域との連携を深め、より実践に近い形で学びやすくしてほしい。</p> <p>生徒が実社会で自身を守る意識をそだてるためにも、教職員の方が適正かつ柔軟な働き方ができる体制になることを願う。</p>	<p>幼児児童生徒数が少ないこともあり、教職員の人権・同和教育への意識が希薄になりがちである。様々な角度からアプローチして、教職員の意識啓発を図りたい。</p> <p>安全教育については、今後も様々な状況を想定し、具体的な活動を通じた安全教育の充実に努め、安全への意識や実践力を高めたい。</p> <p>教職員の勤務時間の適正化を図るために、各課や各自の仕事分担を適切に決めることが今後の課題である。</p>
---	--